



# 東北のかなめ

vol.53 (2021.6)



砂像「昇鯉」(しょうり)  
(宮城県東松島市矢本駅前)



後ろには、ブルーインパルスも描かれています

## 【CONTENTS】

- ✓ 東日本大震災追悼式 米軍三沢基地
- ✓ 運貨船 命名・進水式
- ✓ 感謝状～東和株式会社～
- ✓ トピック
  - ・三沢市南部配水場 通水式
  - ・「朝雲賞・優秀掲載賞」 5年連続受賞
- ✓ ようこそわが街へ(第23回)～山形県酒田市～
- ✓ 防衛関連企業シリーズ⑥：株式会社ジャムコ
- ✓ インフォメーション

# 東日本大震災追悼式 米軍三沢基地

3月11日、米軍三沢基地(青森県三沢市)において、東日本大震災追悼式が関係者約50人の参列により、開催されました。

関係者は、「トモダチ作戦」を映像で振り返り、地震が発生した14:46に黙とうを捧げました。

ジェシー・J・フリーデル司令官は、「被災した方々が、この困難を乗り越え通常の生活に戻るよう支援をしました。世界中に日米同盟の真の姿を示すことができた。」と述べました。

また、「トモダチ作戦」にちなんで、米軍三沢基地の三沢将校クラブ「ボールルーム」が「トモダチルーム」と改称されました。

改称にあたり同司令官は、「今後何十年にもわたって、日米の市民が友情を築き、日米同盟を深める場として使われ続けるでしょう。」と述べました。

左から

樋山謙一郎 北部航空警戒管制団司令

久保田隆裕 第3航空団司令

ジェシー・J・フリーデル 三沢基地司令官

竹林秋雄 三沢市商工会長(当時)

熊谷昌司 東北防衛局長



## ～トモダチ作戦とは～

「トモダチ作戦(Operation Tomodachi)」とは、東日本大震災において在日米軍が過去に例のない、迅速・大規模、長期間にわたり実施した支援活動です。

活動には、陸・海・空・海兵隊から最大2万人以上、艦船約20隻、航空機約160機が参加、支援物資の輸送、仙台空港の復旧、JR仙石線のがれき撤去や行方不明者の集中捜索等が行われました。

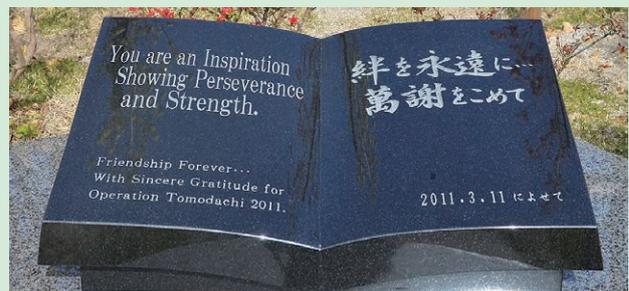


上：トモダチ作戦  
「ソウルトレイン」(JR仙石線旧野蒜駅)

## ～友情の記念碑(宮城県気仙沼市)～

宮城県気仙沼市の大島には、この作戦に感謝を示す記念碑が島民の有志の方によって設置されています。

記念碑には、「絆を永遠に 萬謝をこめて」と記されています。



4月5日、株式会社北浜造船鉄工(青森県青森市)で海上自衛隊の運貨船(50トン型)の命名・進水式が実施されました。

同船は今後、各種艀装、海上公試等の各種検査を経て、6月に海上自衛隊大湊地方隊(同県むつ市)に引き渡される予定です。

運貨船は、接岸できない大型艦船への補給品の輸送に使用されるほか、前方のランプドアを用いて小規模港湾や砂浜などに車両や物資を陸揚げすることが可能であり、災害時には海からの輸送で活躍することが期待されます。



命名式(「YL18」と命名)



進水



支綱切断

## 感謝状～東和株式会社～

4月13日、東和株式会社(福島県本宮市)に対して、同社において、東北防衛局長感謝状を贈呈しました。当日は、緊急事態宣言を受け、東北防衛局長に代わり、郡山防衛事務所長が贈呈しました。

佐藤恵一代表取締役社長からは、「このような感謝状を頂き、会社として大変ありがとうございます。引き続き良い製品をお届けできるよう頑張りたい。」との感想をいただきました。

同社は、昭和23年創業以来、自衛隊の制服や雨衣等をはじめ官公庁や民間企業向けの制服等を製造しています。令和元年10月の台風19号の水害では、本社工場3棟の全部が約3.7mの高さまで浸水し、甚大な被害を受けましたが、約2か月で仮復旧を終え製造を再開、納期猶予されたものを除き、納期までに製造を完了し部隊に制服を納入する等、調達業務を通じて、自衛隊の任務遂行に大きく貢献いただいています。



感謝状を持つ佐藤社長と小山郡山防衛事務所長

小山所長着用の制服も  
東和株式会社製です

## 三沢市南部配水場 通水式

4月26日、青森県三沢市南部地区に完成した南部配水場において通水式が行われました。

本事業は、三沢飛行場と周辺地域の民生安定を図るため、「防衛施設周辺的生活環境の整備等に関する法律」第8条に基づく民生安定施設整備事業として、平成27年度から用地買収、建設工事等が始まり、今年3月に完成しました。補助対象事業費の約半分を占める約10億9百万円に補助金が充てられています。

小檜山吉紀三沢市長から「耐震化された施設が完成したことから、災害時の応急的な給水拠点として重要な役割を担い、同市基本方針である「いつでも使える災害に強い水道」という目標に向け大きく前進したものと確信している。」との挨拶がありました。



## 「朝雲賞・優秀掲載賞」5年連続受賞

朝雲新聞社では、毎年「朝雲」に掲載された部隊や機関などからの優れた投稿記事や写真を表彰する「朝雲賞」を実施しています。「記事賞」「写真賞」「個人投稿賞」「掲載賞」の4部門があり、昨年(2020年1月～12月)、朝雲新聞への掲載が最も多かった「掲載賞」の地方防衛局部門で、東北防衛局が5年連続の「優秀掲載賞」を受賞しました。昨年1年間で、当局投稿記事が11件掲載されました。



「表彰状」と記念品「盾」



朝雲新聞とは、朝雲新聞社が毎週発行している防衛情報専門の新聞です。当局に限らず防衛省の全機関からの記事が掲載されています。

「朝雲賞」は、昭和34年に始まった制度であり、「地方防衛局部門」は東北防衛局の要望で平成28年2月に新設されました。

平成29年以降、全ての地方防衛局の前年投稿分が受賞対象とされ、最も多く紙面を飾った地方防衛局に「優秀掲載賞」が表彰されます。



# 山形県酒田市



山形県北西部の日本海に面した酒田市は、庄内平野のほぼ中央に位置する人口約10万人のまちです。酒田沖北北西39kmに浮かぶ飛島は、山形県唯一の有人離島で、山形県と秋田県の県境にある鳥海山と合わせ鳥海国定公園に指定されています。また、2016年から「鳥海山・飛島ジオパーク」として、日本ジオパークネットワークへ加盟しています。

## 【見て歩く🐾酒田さんぽ】

その始まりは8世紀までさかのぼるといわれる酒田湊は、江戸時代、人口が増加した江戸に米を運ぶため幕府の命を受けた河村瑞賢が整備した西廻り航路の起点として飛躍的に発展しました。北前船による上方との交易が活発になったことで、酒田のまちは急速に発達し、関東以北随一といわれるほどの商業都市となりました。上方との往来の影響は、食・文化・言語に至るまで、この酒田に大きな変化をもたらし、今でも往時の様子を随所に垣間見ることができます。北前船にゆかりのある自治体として認定された日本遺産「荒波を越えた男達の夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」の構成文化財となっている本間家旧本邸、本間美術館、旧鎧屋(※)、酒田舞娘の演舞が見られる相馬楼、傘福が展示される山王くらぶは、現在観光施設として公開されています。

※改装工事のため休館中

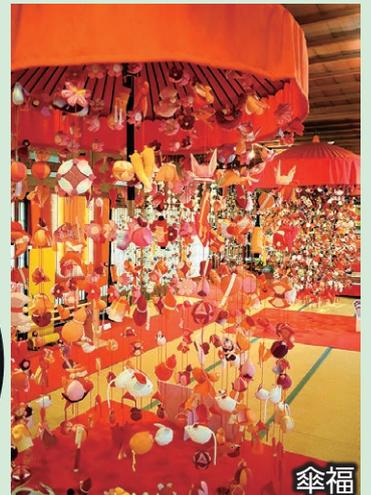
酒田のラーメン



酒田七蔵



酒田舞娘



傘福

## 【食べ歩く🐾酒田さんぽ】

日本海の新鮮な魚介類、肥沃な大地で育った農作物。和食で味わう海の幸も格別ですが、豊富な地元の食材を使った酒田フレンチも有名です。日本有数の米どころ庄内平野の米は、ご飯はもちろんお酒も絶品。酒田には個性豊かな7つの蔵元があり、伝統の技で自慢の逸品を醸します。また、ラーメン消費量日本一の山形県の中でも、酒田のラーメンといえば、魚介のダシを中心としたあっさり系の醤油スープとこだわりの自家製麺。極薄の皮のワンタンメンもオススメです。

酒田の観光は「酒田さんぽ」で検索  
sakata-kankou.com



酒田市公認  
マスコットキャラクター  
もしえのん  
あののん



# 防衛関連企業シリーズ⑥：株式会社ジャムコ

～東日本大震災からの復活～

株式会社ジャムコは、宮城県岩沼市に機体整備工場があり(本社：東京都立川市)、昭和30年に創立されました。同工場では、各自衛隊の航空機整備を行っており、「技術を翼に世界の空へ」をスローガンに、機体整備等に取り組んでいます。

同工場は、平成23年3月11日の東日本大震災で甚大な損害を受けました。

今回は、被害の状況やそこからの復活等について、黒岩浩己機体整備工場長にお話を伺いました。



お話を聞かせてくださった  
黒岩浩己機体整備工場長

Q1： 当時の被害状況について教えてください。

A1： 施設の倒壊は免れましたが、波高約2mの津波により大きな被害を受けました。漂着した瓦礫による施設の損傷、1階部分の水没及び泥土による汚損、電気系統を始めとする設備や工具類の流出や損傷、格納中の機体の水没等、多くの被害がありました。

Q2： 業務再開までの様子を教えてください。

A2： 工場内に対策本部を設置し、東京の本社との連携で復旧作業を実施しました。

まずは、施設内の瓦礫及び汚泥の撤去、その後、施設や設備及び工具類の修理・調達を行い、関係当局による施設等の健全性の確認を受け、10月に業務を再開しました。

Q3： 機体整備における心構え等を教えてください。

A3： 品質の確保がすべてとの思いで、声出し確認、指差し確認、触る等の五感も生かしての確認等を徹底しています。

また、整備や修理は、製造ラインのように計画的には行かないところもありますが、生産管理に工夫をすることで対応しています。

今後も「航空安全の確保は、当社における最も重要な基盤であり、顧客や社会への責務である。」との思いで取り組んで参ります。



被災直後の様子



現在の様子

～現在の防災対策～

国・自治体が実施した防災対策(防潮堤の強化等)の他、会社としても、電気系統の高架化、非常電源の設置、1階事務所の廃止と2階への集約、地震対策の規則化等を実施されているとのこと。



新幹部紹介(令和3年3月15日、4月1日着任)

防衛補佐官 清水 直樹(しみず なおき) (3月15日付着任)  
【前職：会計監査隊東北方面分遣隊長】

企画部長 阿部 也寸志(あべ やすし) (4月1日付着任)  
【前職：南関東防衛局企画部次長】

調達部長 杉山 英広(すぎやま ひでひろ) (4月1日付着任)  
【前職：内局整備計画局施設計画課契約制度企画室長】

周辺財産の個人・企業等に対する  
有償使用許可のご案内

三沢・八戸・松島の各飛行場周辺、三沢対地射爆撃場周辺及び王城寺原演習場周辺に「周辺財産」(移転補償跡地)と呼ばれる国有地があります。

当局では、土地の有効活用を図る観点から、周辺財産(移転補償跡地)の行政目的を妨げない範囲で、**個人、企業等に対しても、一定の条件の下、有償での使用許可を行うこととして**います。

○お問い合わせ先  
東北防衛局 企画部 施設管理課緑化対策係  
電話：022-297-8213

○こちらから関連ページへ  
アクセスできます→



周辺財産(空地) 使用許可の例(駐車場)



ドローンの規制についてのお知らせ

小型無人機等飛行禁止法により指定されている**自衛隊施設／米軍施設**その**周辺地域**(周囲約300m)の上空における**ドローン**等の飛行は、**原則として禁止**されています。

これに違反した場合、次のような措置／罰則もあります。

- 警察官等による安全確保措置
- 最大懲役1年／罰金50万円

対象防衛関係施設および飛行をさせたい場合の手続きの詳細については、防衛省HPをご参照ください。

<https://www.mod.go.jp/j/presiding/law/drone/index.htm>



○お問い合わせ先：東北防衛局 地方調整課 022-297-8212  
三沢防衛事務所 0176-53-3118  
E-mail : drone-th@tohoku.rdb.mod.go.jp (共通)

レーザー光線の航空機への照射は**犯罪**(注)です

神奈川県内、東京都内、沖縄県内等で飛行中の航空機に対してレーザー光線を照射するという事案が多発しています。墜落等による大惨事を地域の皆様にもたらしかねない大変危険で悪質な犯罪ですので、**決して行わないでください**。航空機に向けてレーザー光線を照射している人を見かけた方は**110番通報**をお願いいたします。



レーザー光線による操縦士への影響(イメージ)

(注)平成28年12月、改正航空法施行規則が施行され、規制が強化(レーザー光線を航空機に向かって照射する行為自体に罰則(50万円以下の罰金))。刑法の威力業務妨害罪(3年以下の懲役又は50万円以下の罰金)、航空危険行為処罰法の航空危険罪(3年以上の有期懲役)等に該当する場合あり。

**平成27年12月及び平成28年11月に威力業務妨害罪で逮捕例あり。**

○内容についてのお問い合わせにつきましては下記に御連絡願います。  
防衛省東北防衛局企画部地方調整課(直通) 022-297-8212  
(青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県を管轄)

# 在日米軍従業員募集

日本の「アメリカ」で働きませんか!

「エルモ」が応援!あなたの就活!



独立行政法人駐留軍等労働者労務管理機構【エルモ】では、在日米軍基地で勤務する従業員の募集を行っています。

**【Twitter 開設】**

令和3年4月より、求人情報等の募集関連情報を定期的に発信いたします。ぜひ、フォローをお願いします。

アカウント名「在日米軍従業員求人情報 (エルモ)」

※求人情報提供メールサービスに登録すると、希望する求人情報がホームページに掲載される都度、お知らせメールが送信されますので御利用下さい。

**【窓口応募受付・お問い合わせ先】**

エルモ三沢支部管理課管理係

住所：青森県三沢市平畑1-1-25

電話：0176-53-4165

担当施設：三沢飛行場、八戸貯油施設、車力通信所

<https://WWW.lmo.go.jp>

LMO 検索

求人情報



※求人情報提供メールサービス



編集後記



表紙の写真は、宮城県東松島市地域おこし協力隊の砂像彫刻家保坂俊彦氏の「昇鯉（しょうり）」という作品です。高さ2.4m、幅2mで、東日本大震災や新型コロナウイルスに打ち勝ち、一步前に踏み出そうという願いを込め、女神が鯉を天空に導く情景を表現しています。

同市には、ブルーインパルスが所属する松島基地が所在し、砂像近くには、ブルーインパルスの名を冠した通りやマンホールもあります。

ブルーインパルス通り  
Blue Impulse St.

